

青島神社：天の平瓮

平瓮は素焼きの粘土製の皿の 1 種で、日本では弥生時代（300 BCE–300 CE）から宗教的目的に使われてきました。720 年に編纂された古代の日本に関する歴史書である『日本書紀』では、この皿は神話上の初代天皇である神武天皇によるものとされている言葉の中で言及されています。神武天皇は平瓮は占いの道具であるとし、平瓮を使っていた信仰心のあつい人に対しては願いが叶うよう呪文を唱える前に心と体の両方を清めるよう奨励しています。平瓮は奈良時代（710–794）には宮中で占いに使われ、またこれに似た粘土の皿は神々に食べ物を供える時にも使われました。元宮では古代の儀式で使われた皿が大量に発掘されており、参拝者は地元の粘土で作られた平瓮を神社の隣にある聖域に柵越しに投げることで運勢を試すことができます。皿を投げる前には、投げる方向に 2 回お辞儀をし、願い事をしたいことを思い浮かべましょう。平瓮が聖域に着地したら願いが叶い、皿が着地した瞬間に割れたら幸運と悪霊からの保護が得られると言われていています。皿 1 枚ごとに神社に 200 円の寄付をお願いします。